

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「関学総政宣言」の社会への浸透を図る	→学部独自HPの更新・利用状況、広報誌、公開シンポジウム開催回数・参加人数、オープンキャンパス参加人数、高校訪問回数	B	B	/	/	/
2. 学部の将来構想を策定する	→将来構想委員会等の開催回数、答申の有無	B	B	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 総合政策学部の目的は、世界に起きている諸問題を解決しながら、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」を可能とする社会の実現に貢献する世界市民の育成である。2009年度から4学科体制を導入した際、学部全体の理念として「Think Globally, Act Locally～今、身近な問題から世界の扉を開く」という「関学総政宣言」を掲げ、学科ごとに以下のテーマを設定して、教育研究活動の推進にあたっている。 総合政策学科：総合政策のニューフロンティア メディア情報学科：情報メディアと政策のシナジー 都市政策学科：都市再生の処方箋 国際政策学科：「ミレニアム開発目標」の実現に向けて (説明) 2009年度に引き続いて、各学科とも学部の理念・目的に沿った教育研究活動を実行している。
	小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 学部のパンフレットやホームページの記載によって、学内・学外に明示している。さらに、各種のシンポジウム等の開催や研究叢書等の刊行によって、理念・目的の周知に努めている。
	小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない 2010年度は前年度と引き続き、理念・目的に沿って実行しつつある段階にとどまり、定期的な検証にはいたっていない。

その他

2009年度の学科増設以来、学部の体制の刷新とカリキュラム改革を進めてきたが、2012年度の学科完成に向けて、理念のさらなる浸透を図るとともに、検証・改善のためのシステムを整える必要がある。

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	2009年度以降の新学科向けのカリキュラム改編に進行にともない、「関学総政宣言」の理念を各学科の教育・研究活動や研究成果公開において反映させることで、新たな総合政策学部像を形成しつつある。
小項目0.0.2	学部内では、各種のイベントや独自ホームページを整備して、学部や各学科の理念・目的について普及に努めた結果、教員・学生ともに新しい総合政策学部像が浸透してきた。学外に対しても、公開シンポジウムや研究成果物等を通して成果をあげつつある。
小項目0.0.3	定期的な検証をするには至っていないが、理念の浸透についてはかなりの効果をあげている。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	新学科完成とともに、カリキュラムや研究教育体制の再編等を通して、基本的な理念・目的の浸透とともに新たな目標設定に向けて、引き続き努力を続ける。
小項目0.0.2	過年度に引き続き、シンポジウムや各種イベント(リサーチ・コンソーシアム/リサーチ・フェア)等で理念の周知に努めるとともに、研究叢書の刊行や教材開発等を進める。
小項目0.0.3	将来構想検討委員会等を中心に、2009～2010年度の成果についてまとめるとともに、その効果を検証する。さらに新たな理念・目的について検討する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	新学科完成にあわせて、学部・各学科ともに新たな理念・目的の検討が必要である。
小項目0.0.2	とくに学外に対しては、従来のイベントやメディアに加えて、さらに新しい周知の方法の開発を考える必要がある。
小項目0.0.3	上記のように、検証のシステムを構築する必要がある。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	新たな理念・目的の検討とともに、そのすみやかな浸透を目指して、教員間の相互理解を進めるため、FDも含めた学部内研究会等を開催する。
小項目0.0.2	学外への浸透に向けて、現在のリサーチ・コンソーシアムや公開シンポジウムの開催・情宣方法を改善するとともに、Webによる広報についても改善を進める。
小項目0.0.3	将来構想検討委員会等を中心に検証システムを整えるとともに、2009～2010年度の成果にもとづいて、新たな理念・目標の検討を始める。
その他	2012年度の国際政策学科・都市政策学科の完成にあわせて、小項目0.0.1にあげられている各学科のテーマについて再検討を加え、理念・目的に適合したカリキュラムを開発していく。

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他(自由記述)	2009年度以降、理念・目的の浸透に向けて様々な方法を試行してきたが、総合政策学部の発展のためにはさらなる努力によるイノベーションが必要である。かつ、教員間の相互理解と協力が欠かせない。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○学部の理念・目的の設定、関係者への浸透のための取組みがしっかり行われています。効果の検証結果が期待されます。

【学内委員】

○「関学総政宣言」を社会に浸透させる努力が継続され、よりよい成果の上がることが期待されます。ただ、それを何によって測定するかということは困難な問題です。目標の指標として記述されているものだけで十分でしょうか。

○学内での総合政策学部の位置付けがはっきりしてきていることは評価できます。

○記述は適切で丁寧です。課題も明確にされ好感が持てます。課題の改善に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・学部の理念・目標は「総政宣言」として明確にされており、それに基づく将来構想の策定が企図されています。そのこと自体は評価されますが、2009年度に設定された目標にも謳われているように、それらを如何に社会に浸透させ、具体的な将来構想を明確にするかということが課題でしょう。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

効果の具体的検証に関する問題については、ご指摘の通りです。この点については、以下のように考えております。

(1) 何よりも客観的な指標が確立されていません。これは学部で早急に検討していきたいと思えます。

(2) ただし、今般、大学ならびに学部を取り巻く状況の変化が激しく、それに対応することに精一杯で、中長期的視野での検証の指標についてコンセンサスが得られにくい。

(3) 中長期計画の多くが、効果が上がるまでのタイム・ラグが長いため、果たして効果が実際に上がっているのか、なかなか見極めにくい。

このような条件下ではありますが、学部として引き続き努力を続けたいと存じます。